

山の日情報

(第 2 号)

平成28年6月22日

秋 田 県 生 活 環 境 部
自 然 保 護 課

【活動記録】

6月12日(日)に太平山山開き清掃登山を実施しました。

太平山山開き登山は、秋田市・五城目町・上小阿仁村の3市町村で構成する‘太平山県立自然公園整備促進地域協議会’が毎年実施している行事ですが、今年は県の「山の日」制定記念事業に賛同をいただき、清掃活動を兼ねた記念登山として実施させていただきました。

参加者は、最年長は74歳、最年少は8歳という幅広い年代の約40名が集まりましたが、リタイアする方もおらず、参加者全員が登頂することができました。これも、的確なガイドをする日本山岳会秋田支部の皆様のおかげと思います。

また、ビギナーの方、ベテランの方、家族で参加された方、県外から参加された方、様々な思いを持って山に登る参加者の姿に感動をしました。

日本百名山の著者である深田久弥は「百の頂に百の喜びあり」と書いていますが、「一の頂に百の喜びあり」とも言えるのではないのでしょうか。

なお、清掃登山については、登山者のマナーの向上から、ゴミはほとんど落ちていませんでしたが、登山を楽しむと同時に、自然環境の保全について考える機会になっていれば幸いです。



(参加者の感想)

当日は良い天気恵まれ、旭又登山口から出発して、あやめ坂の急な坂を登りヒメシャガの群生を見て、見事なブナの原生林の尾根を登って中間点の御手洗で湧き出る清水で喉を潤し、その後ジグザク道七曲を通過して、いよいよ稜線に出ると三吉神社の奥宮まではもう少し。山頂は展望も開け秋田市はもちろん、男鹿半島や日本海も見えて雄大な景色を見ることができました。

緑の美しさやブナの原生林の素晴らしさ、頂上の展望に心を洗われて、とてもさわやかな気持ちで下山することができました。

やはり自然保護は大切だと痛感しており、また、サポートしていただいた皆さん、本当に有難うございました。(保坂貞子様)

(関係者の感想)

太平山山開き登山は、把握している限り昭和48年から開催しており、今年で43回目となります。今年は、「山の日」制定記念事業として、初めて秋田県とタイアップし、太平山山開き・清掃登山を実施しましたが、参加者の皆様と山の環境を考える良い機会となりました。

また、秋田県より配付された記念バッジ、小松由佳さんからのメッセージカードなどは、好評で皆様から大変喜んでいただきました。

参加者や関係各所の皆様のおかげで、登山を無事に終えることができ、感謝しております。ありがとうございました。(秋田市建設部公園課：鈴木様)

(事務局からのお知らせ)

- ・「山の日」制定記念事業に参加された方々には、記念ピンバッジのほかに、チラシ及びメッセージカードを配付しています。
チラシとメッセージカードの作成にあたっては、佐藤俊正氏と小松由佳氏にご協力をいただきました。両氏には、厚くお礼申し上げます。

【特 別 寄 稿】

「山の日」制定に思う

佐々木 民秀

6月12日に行われた太平山山開き清掃登山は、晴天のもとに無事終了した。

かつての中高年登山ブーム以降、参加者の年齢層も多少若返り、初めて太平山に登るという人も多かったようである。

一般登山者の中には、遠く岡山や静岡から来た人もおり、県外人の人気は相変わらず高い。日本三百名山や新日本百名山に選定され、一等三角点のあることにも繋がっているようだ。

秋田県内には、登山として楽しめる山は里山も含め150山ほどあろう。各地域に鎮座する鎮守の森・里山は数多いが、今日では一部を除いて大方は忘れ去られ、廃道化と無縁仏化が進んでいる。人口減と高齢化、それに市町村合併などにも関係があるようである。

本年から「山の日」が制定されスタートする。

願わくば、知名度の高い山々のみに脚光を浴びせず、古来から地域の人々と関わりあってきた里山などにも、大いに登り親しんで頂きたいものと思う。

～佐々木民秀さんの紹介～

県内の全630山を初めてまとめあげ、1,000 m以上の山々を全踏破。

朝鮮半島や台湾の山々にも精通し、平成3年に太平山と韓国・智異山を世界初の姉妹山として締結させる。

現在、秋田中央地区山岳協議会会長、公益社団法人日本山岳会秋田支部顧問として活躍している。